

世帯と人口

8月1日現在・()内対前月比

世帯	45,442	(+ 58)
人口	120,506人	(+ 48)
男	61,376人	(+ 21)
女	59,130人	(+ 27)

広報えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。

関根さん(手前)の軽妙な進行で練習中の「タやけ小やけ」



えびな模様

総勢160人若々しく大合唱

仲間の存在が心の支えに

「歴史を語る わがまち海老名」…海老名ブライムホールに、「海老名市民の歌」が高らかに響きます。歌っているのは、50歳代から80歳代までの160人が所属する、高齢者合唱団「タやけ小やけ」。声楽家・関根宣義さん(上今泉在住・49歳)の指揮で、3年前から活動を続けています。現在は、9月29日(月)に市が文化会館で開催する「敬老のつどい」コンサートに向け、練習の真っ最中です。

練習では、友達だけに固まらないよう毎回席を変えたり、誕生日を迎える団員を全員の前で紹介したり…最後には「一緒に歌えてよかった」と、必ず全員で手をつないでから解散するようにしています。「楽譜を見ていると、顔が下を向いてしまいます。余白に『関根さんの顔を見る!』と大きく書いておきましょう。でも、ウインクはしないでね。ユーモアあふれる関根さんの指導で、会場が爆笑に包まれることもしばしばです。

こうした和やかな雰囲気のおかげか、『タやけ小やけ』に入って友達も増え、性格も積極的になった」と、多くの団員が口にします。また、「練習を休んだ人がいると、その人のことがとても気になります」とも話しています。

大谷在住の宮内勇さん(65歳)は、去年7月に心臓病で入院。幸い無事に退院できましたが、以前のように声が出せなくなり、とても不安になったとか。しかし、今年1月練習へ復帰した際「元気になってよかった。また一緒に頑張りましょう」と迎えられる、「多くの方々が自分を待っていたことに驚き、胸が熱くなりました。おかげで少しずつ声が戻り、体の回復に自信が持てるようにもなりました」と話します。

関根さんも、団員に「今まで一番悲しかったことは…」と聞いたときの、「一緒に泣いてくれる人がいなかったこと」という返事が忘れられないといいます。「一人ぼっちが一番つらい。だから、団員にとって『タやけ小やけ』は、自分を待っていてくれる場所、自分がいてもいい場所ということなのでしょうね。」

年齢も人数も大規模な「タやけ小やけ」ですが、「敬老のつどい」のお客は全員が75歳以上、ほとんどが団員にとって人生の先輩に当たります。「この街が好きだ、あなたがいってくれてありがとう」…そんな思いを、先輩方と分かち合いたい」と、団員のみなさんは意気込みを。それは、「タやけ小やけ」にとって合唱はほんのきっかけで、本当は知らない人々同士が集まり、向き合い、新たな出会いを待っていることが、とても楽しいせいなのかもしれません。